

## 東日本大震災で被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。

3月11日、東北地方で大地震が発生し、それに伴う大規模な津波により東日本は多大な被害を受けました。二次・三次災害の報道は後を絶たず、最も深刻な原発問題は日々報道内容が変化しつつあり、世界中が混乱しているといっても過言ではありません。しかし、最も忘れてはいけないことは、地震後1カ月が経とうとしている今でも、避難所での生活を余儀なくされ困難な日々を送っている方々が未だたくさんいらっしゃるということです。

私事で恐縮ですが、先の阪神大震災では住居が全壊し、自宅付近のコミュニティと仕事とのほざまにも悩んだ経験をもっています。特に震災復興時には、避難所を回り、被災者の方々のお世話など、美術館職員も総出で支援にあたりました。宮城県美術館や福島県立美術館をはじめ、これまで当館の展覧会でもお世話になった多くの館が、現在休館を余儀なくされています。今後、こうした館への復興支援も考えないわけにはゆきません。

被害を受けられた全ての方と被災地の、1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

山野英嗣（当館学芸課長・「友の会」事務局長）

## 展覧会のご案内

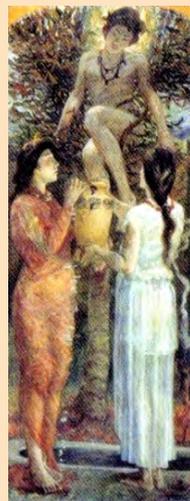
### 没後 100 年 青木繁展—よみがえる神話と芸術

2011年5月27日（金）～7月10日（日）

わが国近代絵画史上「天才」と呼ばれ、わずか28年の生涯に幾多の名作を残した青木繁。関西ではいまだ開催されたことのない回顧展が、没後100年を経て実現します。代表作はいうまでもなく、現存する油彩画70点を軸に、水彩画・素描200点を加えた空前の規模で構成するとともに、没後その伝説の形成から今日にいたるまでの貴重資料も加えます。青木繁の生涯と芸術の全貌に迫る待望の展覧会です。

#### 特別展示

森村泰昌《海の幸・戦場の頂上の旗》映像作品 2010年、作家蔵  
（本展覧会会期中、4階コレクション・ギャラリーにてご覧いただけます）



《わだつみのいるこの宮》  
1907、石橋美術館蔵

### パウル・クレー展 解説会

4月7日（木）午後5時30分～

解説者：池田祐子（当館主任研究員）



展覧会ごとに行っている友の会特別解説会は、昨年度より閉館後の会場で行われることが多くなりました。開催中のパウル・クレー展は人気も高く、開館中は混雑を避けられません。今回は18名の参加者の皆さままで、解説をお聞きいただきました。

## 「青木繁展」友の会特別解説会

青木繁展会期中に、友の会会員の皆様をご招待し、解説ツアーを開催いたします。最初に開催趣旨をお話した後、閉館後の会場に足を運び、重要文化財の《海の幸》や《わだつみのいるこの宮》を前に、解説者が青木繁になりきって、作品誕生の秘話について、これまでとは全く異なる視点からお話します。

日時：6月25日（土）午後4時30分～6時

（午後4時15分に一階インフォメーション前に集合）

解説者：山野英嗣（当館学芸課長）

#### ※申込方法

申し込み先：京都国立近代美術館 事業係

電話：075-761-4115

（月曜から金曜まで午前10時～午後5時）

※お申し込みの際は、お名前・会員番号をお伝えください。

#### 細見美術館主催 展覧会関連イベント

### 第31回アートキューブレクチャー

## 「貴女の知らないマイセン」

4月23日（土）から細見美術館にて開催の、「陶磁器に出会うV 開窯300年 マイセン 西洋磁器の誕生」展の関連イベントとして、当館講堂を会場に講演会を行います。近隣美術館として長年連携を保っている細見美術館と当館。今回は特別に、100名定員のうち20席を友の会会員の皆様にご用意いただきました。

日時：6月4日（土）午後2時～

会場：京都国立近代美術館 講堂

講師：松村真希子氏（陶磁史研究家）

※申込方法は解説会と同じです、左記にてご確認ください。

※当日は午後1時45分に講堂前の受付までお越しください。

# 「青木繁ゆかりの地をめぐる」友の会ツアーのご報告



3月26日(土)～3月27日(日)

さて、前回の「友の会ニュース」でも連絡いたしました「青木繁ゆかりの地をめぐる」友の会ツアーは、ご参加いただいた方々にも好評で、企画した職員一同嬉しく思っております。今年、青木繁の没後100年の記念の年にあたり、「最初で最後」といって過言ではない大回顧展の鑑賞はもちろん、青木の命日に近い日曜日に、青木を偲んで久留米市の主宰で毎年開かれている「けしけし祭り」にも、「友の会のツアー」参加者一同招待いただき、好天にも恵まれ思い出っばいの旅となりました。以下その詳細についてご報告いたしますが、できればこうしたツアーは、今後も継続して開催したい思いもふくらんで参りました。

山野英嗣(当館学芸課長・「友の会」事務局長)

## 1日目

### 九州新幹線「つばめ」



博多駅で九州新幹線「つばめ」に乗り換え。木目調の内装が高級感を演出していました。

### 青木繁展会場にて



石橋美術館では、青木繁展の企画担当者である植野学芸員による特別解説会に参加しました。青木の作品の背景に触れることで、より親近感を持って作品を見ることができました。5月28日(土)には、植野氏による講演会が、当館で開催されますので是非ご参加ください！

### 石橋文化センターにて



左は、石橋文化センター内にある、青木繁のライバル・坂本繁二郎のアトリエ。元々は福岡県八女市にあったものを、文化センター内に移築したそうです。右の石橋文化センターの庭には、多種多様な椿が咲いていました。

### 青木繁の旧居へ



青木の旧居にも訪れました。庭に面した居間は全面ガラス張りで、素敵で開放的な空間でした。ほとんどは修繕が施されていますが、一部サッシやガラスが当時のまま残されていました。

## 2日目

### 青木繁のお墓参り



ホテルから徒歩圏内にある順光寺へ、青木の墓参りに行きました。順光寺に到着すると、既にけしけし祭へ参加する人達がたくさん集まっています。久留米市民の青木への想いを垣間見ることができました。



### 有明海料理店「鳥善」

夕飯は「鳥善」という有明海料理のお店へ... お店の方は青木の親戚にあたる方で、青木同様、明善高校出身。ご主人の代わりに息子さんが料理の説明などをしてくださりました。ムツゴロウやイソギンチャクなど、有明海の珍しい食べ物がもりだくさんでした。

### 久留米城跡にて



西鉄久留米駅からバスで大学病院の方まで来ると、久留米城跡まで歩いて3分で到着しました。少しわかりにくいところにひっそり佇んでいた青木繁の歌碑にも無事たどり着けました。

### けしけし祭へ



午前10時、けしけし祭参加者全員で専用バスに乗り、元西鉄バスガイドさんの可愛い久留米弁の解説を聞きながら、けしけし山にある青木の慰霊碑に向かいました。「9割は天気に裏切られる」と言われているけしけし祭りでしたが、今年は100周年にふさわしい晴天で祭りを行うことができました。

### 青木出身校、明善高校へ...



最後は青木の出身校である、明善高校(旧中学校)へ。西洋風の門構えがかっこよく、何よりも学校の大きさに一同驚きを隠せませんでした。

## 旅のご感想

### 青木繁の足跡を久留米に訪ねる

5月からの京都国立近代美術館の青木繁展を待ちかねて友の会のツアーに参加させてもらった。石橋美術館秘蔵の重要文化財二点はもとより、特別展のためによくもこれだけ集めたと思う作品と資料類にも圧倒されたが、そのことは専門の方にゆずってツアーの周辺に触れたいと思う。翌日、久留米市内の順光寺に青木繁の墓を訪れたが、坂本繁二郎らが建立したと聞く墓碑は、天賦の才に押されるようにして故郷を捨て夭折した繁への哀惜の念が伝わる、いいものだった。

前日、青木の旧居を訪ねた際、繁が福田たねとの間に一子をもうけていたことを知らされた母君が、たねの父君に詫びた切々たる心情の名文にも感嘆したものだ。その後、バスで繁の生前のねがいに応じて骨を埋めたとされる「けしけし山」山頂の「けしけし祭・没後百年祭」にも参加させていただいたが、地元の方々の方々の青木繁への熱い思いが続いていることがうれしかった。

(ツアー参加者・廷々幸夫さま)